

会長指針

品格と感謝……心のつながり

鈴鹿隆男
(菓子製造販売)

敗戦が齎した人間社会全ての大変貌、戦前戦後の世代の精神的格差は覆うべくもない現実であり、日本民族本来の美德は微塵に壊され喪失していきました。これが今日の日本の実態であり、無味乾燥な国民生活と心の枯渇を生んだ最大の原因と言えましょう。そうした事実が把握されながらその根源を打破出来ぬ程、人間・社会が易きに甘んじ慣れてしまったと言えます。

最近「国家の品格」から発して様々な品格に関する書物が出てベストセラーになっている事が報道され、全く日本の精神が忘れ去られてはいない事を証明するものとして、光明を見いだせたのは嬉しい事であります。

ロータリーも誕生して100年を越え、わが京都東ロータリークラブも半世紀を既に生きて来ました。その間如何にロータリーの本質を我ら自身が修得し、その体質をどれだけ世に反映してきたか、冷静に見詰めなおす時期に来ているのではなかろうかと自問する今日この頃であります。

人生50年、100年も経てば、何処かが磨耗し、老化するものであります。まして組織においても、激動の世界、世代の交替、新旧世代の混淆は精神的格差、思想概念の相違、発想の違いも起きて、長い年月の趨勢が生む歪みの中に大きな澱みが出来るのは自然の成り行きであると思われれます。それをお互い無関心で気付かず慣れ合い、「自我」のみ向かい合って同居する組織となってきたてはいないか、会員が目指してきた自己修練の場は存続しているのか、不信感・孤独感の台頭はないか等、そうした澱みの垢が何時の間にか自分の心にも、クラブにも着いてきたのではなかろうかと懸念する今日であり、自らへの檄と覚醒への警鐘としてこの度の「品格と感謝」をテーマとして取り上げ、「心のつながり」を改めて強調するものであります。今まで歴代会長がテーマとして心の問題を網羅した素晴らしい言葉を取り上げられました。それらに加えての心境です。世界の古今東西の歴史を見ても、謙譲の美德が受け継がれた時代は常に平和と豊穡が約束され、まさに親睦と友情の世界が形成されている事実を知る事が出来ます。

李RI会長は、大局を見据えて授受双方の夢が形へと繋がる実現に焦点を当てられ、川端ガバナーは、それに呼応すると同時にそれらの発動の拠点となる城づくりとして地域社

会への真摯な働き掛け、次の世代にときめきを与え期待される人間像の形成に力点をおかれており、我がクラブもそれと同じくクラブ自体の人間性と結び付きに磐石の思いを再確認し、ロータリークラブとしての真価を問い、社会に認知させ地域社会への貢献と混迷社会からの脱皮、人心腐敗殲滅への役割を持つべきロータリーの末席を負うものと考えます。私達は、現代社会の規範となるロータリークラブの形成を全てに感謝する心の中に夢み、実現に僭越にも挑戦していきたいと願望致します。

品格が備わり感謝の心の豊かな人間は必ず謙譲の美德を有する、譲り合う心は感謝の念と一体化するものであり、そこから生まれる謙虚さは品格を形成するものであります。いわば品格・感謝・謙譲は一体のものであり、我がクラブ悠遠の心の故郷と思っています。

そしてそこから発する行動が社会に反映しこの混迷する世の中に光明を与えるとすれば、ロータリー精神の一石が大きな輝きを発するものと思われます。我々が特に心したいのは、殺しても殺しても蔓延るものは「我」であり、人間の「業」というべきもの、これをすべて殺すのではなく適宜に鎮めて「自我」を抑制し、誇りとするアイデンティティを堅持して感謝と謙譲の精神に心身を投ずるならば「心のつながり」は当然の帰結であり、時代の趨勢を読み取り迎合する事無く正しく判断対応しつつ、京都東ロータリークラブが成長を遂げるならば、次の世代にときめきを与える存在として又、ロータリークラブとしての使命を確実に果たすであろうと考えています。会員各位には何卒、御理解と御友情を賜り、格段の御協力・御指導を懇願する次第であります。